2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	国際看護Ⅰ		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	16　(1)　時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期　不定期	教室名	教室
担当教員	海外事業部職員・専任教員・藤井千江美	実務経験とその関連資格	看護師として5年以上の経験かつ所定の専任教員プログラムを終了したもの。もしくは大学卒で、教育に関する科目4単位以上修得しているもの。			

《授業科目における学習内容》

海外研修視察により、海外の医療事情および看護のあり方の実際について学ぶ 。他国の医療事情について文化との関連から理解する。他国の看護に触れ、日本の看護について考えることができる。日本の看護についてプレゼンを行い情報交換を行うことができる。学生間交流を通し、看護に対する思いを共有する。

《成績評価の方法と基準》

課題・レポート内容で評価します。 60点以上で単位認定となります。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

国際化と看護(メディカ出版)

《授業外における学習方法》

まずは相手国の状況について十分に学習し、日本の現状について説明できるようにしておくこと。また海外研修では積極的にコミュニケーションをとり、自分を表現し、その地域の文化も含め看護の理解につとめるようにしてください。

《履修に当たっての留意点》
海外研修先の文化を尊重した態度で学習する。また、積極的に英語でコミュニケーションをとり多文化の中で多くの学びを得て下さい。
最も大事なことは、体調管理です。出発前からの健康管理を万全にしてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて説明できる。	配布プリント 各自の学習ノート	アメリカの文化を調べる
		各コマにおける授業予定	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	授業内容をノートにまとめられる。	配布プリント 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	授業内容をノートにまとめられる。	配布プリント 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業内容をノートにまとめられる。	配布プリント 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	施設見学で関心を持った点について質問する事が出来る。	配布プリント 各自の学習ノート	アメリカの施設に関する事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における施設見学(病院、ナーシングホームなど)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発表研究を聴き、意見が言える。	配布プリント 各自の学習ノート	研究の発表原稿・PPの確認・修正
		各コマにおける授業予定	学生間交流、相互研究発表		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	積極的に交流する事が出来る。	配布プリント 各自の学習ノート	日常英会話を復習
		各コマにおける授業予定	学生間交流、文化交流		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学びを他者にわかりやすいように発表し、他者の発表には意見を発言できる。	配布プリント 各自の学習ノート	まとめ
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表（学びの共有）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	在宅看護概論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	3年教室
担当教員	井上　奈美江	実務経験とその関連資格	病院勤務　訪問看護ステーション勤務　看護師免許　介護支援専門員免許			

《授業科目における学習内容》

在宅看護概論Ⅱは、フィールドスタディーを通じて、地域で生活する対象者の健康面の課題発見に取り組むことで、地域社会に関心を持ち、看護の視点の広がりや主体的に活動できる能力を養うことを目標としている。また、在宅療養を支える人・機関がわかり、フィールドスタディーの大切さについて理解を深める。

《成績評価の方法と基準》

レポート評価(100 %)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

フィールドスタディー資料／　在宅看護論　地域療養を支えるケア　／メディカ出版　在宅療養を支える技術

《授業外における学習方法》

グループワークを進めるにあたり、自分で興味を持った事柄を明確にしておく。インタビューを行えるように愛用について検討しておく。

《履修に当たっての留意点》

地域社会に関心を持ち主体的に行動することが重要である。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅療養を支える人や機関がわかる	資料 インターネット	本校周囲の地域(フィールド)の特徴について調べておく
		各コマにおける授業予定	対象地域の健康にかかわる特徴を調べたうえで、グループでインタビューの内容の検討を行う		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で暮らす対象の健康面の向上のため、問題点を見出す	インタビュー 実地調査	聞き取り調査のための手順について学習しておく
		各コマにおける授業予定	フィールドスタディの実践。グループで聞き取り調査を行う		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で暮らす対象の健康面の向上のため、問題点を見出す	インタビュー 実地調査	聞き取り調査のための手順について学習しておく
		各コマにおける授業予定	フィールドスタディの実践。グループで聞き取り調査を行う		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループワークを行いデータを聞き取り調査のデータを分析しテーマを設定する	資料 GW	テーマについての学習
		各コマにおける授業予定	フィールドスタディー報告書の作成を行い、グループでテーマを明らかにする		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	テーマについての課題を発見する	資料 GW	テーマについての学習
		各コマにおける授業予定	テーマに沿った調べ学習を行い、まとめる		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	テーマについての課題を発見する	発表資料 GW	テーマについての学習
		各コマにおける授業予定	テーマに沿った調べ学習を行い、まとめる		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発表まとめ	発表資料 GW	発表のまとめ
		各コマにおける授業予定	発表のためのグループワーク		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	フィールドスタディーの発表・評価	発表資料 GW	発表の振り返り
		各コマにおける授業予定	フィードスタディーについて発表と評価　　フィールドノート提出		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	在宅看護論実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80　(2)　時間(単位)
対象学年	3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

在宅の視点から地域理解を深め、地域で暮らす人々の健康と日常生活を守り支える看護を実践するために必要な基礎的能力を取得する

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、各自で必要と考える教科書、実習地域の市町村のデータ等

《授業外における学習方法》

実習地域についての概要(健康のための取り組み含む)を調べ、日常生活に必要な地域資源について理解を深める。また、グループワークに取り組み学びを共有するとともに実践に活かすアイデアを考え表現する。

《履修に当たっての留意点》

①事前学習と追加学習を行い実習に臨む②学生としての身だしなみ・態度で実習に臨み健康管理を行う③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④必要な報告・連絡・相談をする⑤実習目的に沿ったフレクションを行う

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象地域の概要を調べることで、地域資源の必要性の高いものがわかる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、地域のデータ	実習内容の理解 実習地域の理解 自己の実習ビジョンの明確化
		各コマにおける授業予定	実習オリエンテーション 実習地域の概要を調べ、発表する。		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	同行訪問し対象・家族を取り巻く環境を生活活動範囲でとらえることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、指導者や担当看護師との関り	実習内容の理解 目標の明確化 同行訪問に必要な学習
		各コマにおける授業予定	同行訪問　情報収集		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	同行訪問し生活の場に応じた援助方法や物品の工夫がわかる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、指導者や担当看護師との関り	実習内容の理解 目標の明確化 同行訪問に必要な学習
		各コマにおける授業予定	同行訪問　情報収集		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	同行訪問し家族のニーズや療養者の健康状態が家族の生活に及ぼす影響や社会資源の必要性がわかる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、指導者や担当看護師との関り	実習内容の理解 目標の明確化 同行訪問に必要な学習
		各コマにおける授業予定	同行訪問　情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	同行訪問し、看護師の役割や多職種連携、継続看護の必要性がわかる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、指導者や担当看護師との関り	実習内容の理解 目標の明確化 同行訪問に必要な学習 学びの言語化
		各コマにおける授業予定	同行訪問　情報収集　カンファレンス		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨地実習の経験から自己のテーマを設定し包括支援システム構築のために必要な社会資源、連携、看護師の役割について深める。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、テーマに沿った情報	実習内容の理解 テーマの明確化 テーマに沿った必要情報収集と学習
		各コマにおける授業予定	個人ワーク　グループ発表		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	療養者を尊重した態度やコミュニケーションが取れる。また、療養者のニーズやデイケアの果たす役割について理解できる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、デイケア利用者、実習指導者、理学療法士、介護士、ヘルパーとの関り	実習内容の理解 目標の明確化 入浴介助に必要な援助技術 レクリエーションの企画立案
		各コマにおける授業予定	デイケアオリエンテーション 療養者とコミュニケーション　入浴介助		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	家族との連携、会資源との連携の必要性とデイケアにおける看護師の役割が理解できる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、デイケア利用者、実習指導者、理学療法士、介護士、ヘルパーとの関り	実習内容の理解 目標の明確化 連携に必要な多職種に対する理解 レクリエーション企画
		各コマにおける授業予定	デイケアにて療養者とコミュニケーション　送迎に同行		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	デイケアにおけるレクリエーションの必要性とチームアプローチの必要性がわかる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、デイケア利用者、実習指導者、理学療法士、介護士、ヘルパーとの関り	実習内容の理解 目標の明確化 レクリエーションの実施
		各コマにおける授業予定	デイケアにて療養者とコミュニケーション　レクリエーションの実施		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習で得られた学びの共有と実践に活かすアイデアを考え提供する	実習要項 各自必要と考えるテキスト、グループメンバーとの関り	実習内容の理解 グループのテーマに沿った情報と学習
		各コマにおける授業予定	グループワーク　実際に役立つアイデアを発表する		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	国際看護概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	後期　不定期	教室名	3年生教室
担 当 教 員	藤井　千江美	実務経験とその関連資格	看護師にて病棟勤務、海外経験あり			

《授業科目における学習内容》

1) グローバル化が進む現代社会において、国内における保健医療に関する動向を理解し、看護師としての役割を理解することができる。
2)世界の保健格差の現状を理解し、開発途上国の保健問題の背景にある課題について理解し、国内の保健問題と関連づけて考えられる。
3)世界の保健政策、国連機関、そして日本政府の取り組みについて理解することができる。

《成績評価の方法と基準》

終講試験(80%)、レポート(20%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

国際化と看護(メディカ出版)

《授業外における学習方法》

テキスト・配布資料には目を通しておく。社会の情勢には敏感になって情報を集める。

《履修に当たっての留意点》

受け身ではなく、自ら調べ学習に取り組んでください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1)国内における国際看護の必要性を説明できる。 2)外国人患者の抱える課題に対する看護師の対応について、具体的に自身の考えを述べることができる。	テキスト 講師配布の資料	世界の健康問題について、ニュース等より興味をもっておく。
		各コマにおける授業予定	国際看護の必要性と課題		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	世界の保健医療政策について、時代の背景とともに、自身の言葉で説明ができる。	テキスト 講師配布の資料	テーマに関するテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	国際保健の変遷と取り組み		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	開発途上国の保健医療問題の背景にある課題について述べることができる。	テキスト 講師配布の資料	テーマに関するテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	開発途上国の保健医療における課題と社会・文化的背景		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	異文化とは何かについて、自身の言葉で説明ができる。	テキスト 講師配布の資料	テーマについて、ニュース等より興味をもっておく。
		各コマにおける授業予定	国内外における異文化とレイニンガーの看護理論の現場での活用①		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レイニンガーの看護理論を使って、国内外の看護について、異文化の視点で考えることができる。	テキスト 講師配布の資料	テーマに関するテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	国内外における異文化とレイニンガーの看護理論の現場での活用②		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	保健に関わる国連機関の活動について、説明ができる。 日本政府の国際協力の形態、実施機関について、説明ができる。	テキスト 講師配布の資料	テーマに関するテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	保健医療分野における国際機関と日本の政府開発援助のしくみ 持続可能な国際協力とは？（グループワーク）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	HIV/AIDSの背景にある社会・文化、そしてHIV/AIDSについて、自身の言葉で説明ができる。	テキスト 講師配布の資料	HIV/AIDSについて、復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国際協力活動の実際 「ボツワナの国事情とHIV/AIDSの問題」		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	＜授業科目における学習内容＞について、自身の言葉で説明ができる。	テキスト 講師配布の資料	全講義資料と関連するテキストの箇所を読み、総復習をしておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験に向けての傾向と対策（まとめ）、 終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	看護研究Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	前期　不定期	教室名	3年生教室・PCルーム
担当教員	井上　奈美江	実務経験とその関連資格	看護師として病院勤務、研究論文投稿　訪問看護ステーション			

《授業科目における学習内容》

論文作成から成果発表までの一連の過程を通して、看護研究を行うための基礎的能力を養う。具体的にはこれまでに修得した基礎的・臨床的知識をもとに科学的根拠に基づいた研究テーマを検討する。その上でグループで検討テーマに沿って現象の実態を明らかにすることで研究的な学習の進め方を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

別紙評価表あり

《使用教材(教科書)及び参考図書》

看護研究
参考文献は、授業中に適宜紹介する

《授業外における学習方法》

研究論文をリサーチすること
論文作成、発表のため計画的に準備・作成をしていくこと

《履修に当たっての留意点》

計画的に研究を進められるようにグループで協力し主体的に参加すること。また担当教員と調整を行い、研究を積極的に行うこと。
決められた提出期限の厳守すること

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマを検討することができる	PC、教科書、資料	テーマにしたい論文を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	看護研究について(看護研究の意義・テーマ検討・研究計画書)		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマを検討することができる	PC、教科書、資料	テーマに応じた論文を読んで共有しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護研究の方法(研究テーマの検討・絞り込み)		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで計画書を作成することができる	PC、教科書、資料	計画書の書き方を復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	文献検索　研究計画書作成		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な統計分析を理解することができる	PC	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	統計の基本(エクセルでできるデータの分析)　BSC		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な統計分析を入力分析することができる	PC	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	統計の基本(エクセルでできるデータの分析)　BSC		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究の倫理的配慮について述べることができ、質問紙を作成することができる	PC、教科書、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究の進め方（質問紙作成、倫理的配慮、データの取り扱いと図・表）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成の進め方を述べることができる	PC、教科書、資料	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究の進め方（論文作成、、抄録、発表方法）		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動：データ収集、論文作成		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動：データ収集、論文作成		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動：データ収集、論文作成		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	グループ活動：データ収集、論文作成		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発表資料の作り方を説明することができる	PC、教科書、資料	論文作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	発表資料の作り方（PPT作成のコツ）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	発表資料作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表資料の作成を計画的に進めることができる	PC、教科書、資料	発表資料作成の計画に基づき進めておく
		各コマにおける授業予定	論文仕上げ・発表準備・発表会資料作成		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究発表をクラスで運営し、グループで発表することができる	PC、資料	発表練習、発表会運営がスムーズにできるよう各担当役割の準備
		各コマにおける授業予定	研究発表会		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	小児看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生または3年生		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

子どもと家族を理解し、子どもの成長発達および健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を修得する。

《成績評価の方法と基準》

実習評価　100%（病院: 70%、保育所: 30%）

《使用教材(教科書)及び参考図書》

小児看護学概論　小児看護学Ⅰ　医学書院
小児看護学各論　小児看護学Ⅱ　医学書院
e-ナーストレーナ

《授業外における学習方法》

小児における既習の知識と技術を再確認しておくこと。また必要な追加学習をタイムリーに行うこと。

《履修に当たっての留意点》

子どもと関わる上で学生としての態度を忘れず、体調管理に留意する。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	自己のビジョン・ゴールを明確にできる。患児・家族との関わりについて考え、実践し振り返ることができる。[実践活動の場以外で行う学習]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	事前学習 追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	実習前オリエンテーション　事故防止の視点の学習 各発達段階にある子どもへの関わりの実践 付き添いをする家族への関わりの実践		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児の成長発達や症状などに合わせ、コミュニケーション技術を活用しながら関わり情報収集することができる。[病院実習1日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション、受け持ち患児・家族の情報収集、VS測定 日常生活援助、患児家族の望ましい姿を考える、カンファレンス		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の個別性に合わせた安全・安楽な看護を指導のもと実践でき、振り返ることができる。[病院実習2日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	・望ましい姿へ向けた受け持ち患児・家族への援助 情報収集、VS測定、日常生活援助、計画の修正、カンファレンス		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の個別性に合わせた安全・安楽な看護を指導のもと実践でき、振り返ることができる。[病院実習3日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	・望ましい姿へ向けた受け持ち患児・家族への援助 情報収集、VS測定、日常生活援助、計画の修正 ・「子どもの権利を保障する看護」についてカンファレンス		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の個別性に合わせた安全・安楽な看護を指導のもと実践でき、振り返ることができる。[病院実習4日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	事前学習 追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	・望ましい姿へ向けた受け持ち患児・家族への援助 情報収集、VS測定、日常生活援助、計画の修正 ・最終カンファレンス		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の3側面を作成し必要な看護を見出すことができる。[実践活動の場以外で行う学習]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	必要な看護を見出すために根拠を持って3側面の関連性を考え、他者に伝わるように発表する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の特徴や安全対策について述べることができる。[保育所実習1日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	各年齢のクラスに入り、保育士の指導のもと、子どもと関わることができる。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	子どもの反応の意味を考えながら関わることができる。[保育所実習2日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	各年齢のクラスに入り、保育士の指導のもと、子どもと関わることができる。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長発達段階や個別性に応じた関わりを実践できる。[保育所実習3日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	各年齢のクラスに入り、保育士の指導のもと、子どもと関わることができる。子どもがより健やかに成長発達を遂げていくための支援についてまとめ、自己の課題を明確にできる。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	療養による子どもや家族の様々な変化について理解し、成長発達を促す看護をまとめることができる。[実践活動の場以外で行う学習]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	テーマを設定し、そのテーマに沿って振り返り、まとめ、発表する。		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	医療安全		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期　不定期	教室名	3年教室
担当教員	高見　清美	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

医療現場では間違いは重大な結果をもたらすことであり、間違いは絶対避けなければならない。一方で、人間は間違いを犯すものである。医療安全を学ぶ意義、看護業務と医療事故の構造、事故発生要因の分析方法や具体策、医療現場で取り組まれている安全対策などを理解した上で、事故防止の考え方について看護活動の場面から考えていく。

《成績評価の方法と基準》

レポート、試験にて評価

《使用教材(教科書)及び参考図書》

医療安全 (メディカ出版)

《授業外における学習方法》

テキストを読み授業に参加すること。グループワークは積極的に参加すること。

《履修に当たっての留意点》

安全について事前学習をし、積極的に授業に取り組み、医療者としての安全を考えること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療安全に関心を持つことができる	テキスト、プリント	事前にテキストをを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医療安全を学ぶ意義、リスクとクライシス、医療安全に関する基礎知識　医療安全の取り組み		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護職の法的規定と医療安全について知ることができる	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	看護師の法的規定、看護業務の変遷と安全管理、看護行為における行政処分と再教育		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	多職種連携およびチームによる医療安全の取り組みを知ることができる	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	連携と医療安全、チームトレーニング		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームの中の医療安全をを知ることができる	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸療法サポートチーム(RST) 栄養サポートチーム (NST)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームの中の医療安全をを知ることができる	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	感染対策チーム (ICT) ラピッドレスポンスチーム(RRT)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療機関における医療安全への取り組みを知ることができる	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医療における医療安全体制、医療安全マニュアル		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域・全国的な医療安全への取り組みを知ることができ	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医療安全の政策に関する経緯・背景、医療事故情報収集等事業、医療事故調査制度		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療安全対策について述べることができる	テキスト、プリント	前回講義の復習をする。事前にテキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	看護管理		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	前期　不定期	教室名	3年教室
担当教員	小野　恵美子	実務経験とその関連資格	看護部長 ・ 国立病院機構本部、近畿厚生局等で、看護行政職。			

《授業科目における学習内容》

1.2学年で学んだ既習内容(特にキャリア形成論・倫理学・情報倫理・教育学・人間関係論・カウンセリング理論と技法、看護学概論、等)を基盤に、看護サービスにおけるマネジメントを理解し、組織に所属する看護者としての役割と姿勢、課題解決の方法を学ぶ。また、看護場面における倫理的考察を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

授業内の課題レポート及び筆記試験で評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

看護管理(医学書院)
看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)

《授業外における学習方法》

臨地実習で触れた「管理」を想起し、問題意識をもっておく。
看護管理(医学書院)、看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)を　読んで授業を受ける。

《履修に当たっての留意点》

社会や組織が看護者に求めている動向を知り、組織人として果たすべき役割を考える。
今回の講義内容と実習での経験を結び付けて考える。ケーススタディを基に臨床倫理観を養う。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護管理とは何かがわかる	看護管理(医学書院) 看護者の基本的責務(日本看護協会出版会)	管理とは何か、一般的に何を指すのか、調べておく。 臨地実習で触れた「管理」を想起しておく。
		各コマにおける授業予定	看護管理の定義 看護におけるマネジメントとその変遷		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護ケアのマネジメント・看護サービスのマネジメントを理解し説明できる	看護管理(医学書院)	病院・看護部門の組織図を調べる
		各コマにおける授業予定	看護ケアのマネジメント　日常業務のマネジメント 看護サービスのマネジメント　サービスとは　看護サービスとは 組織目的達成と看護の組織化 看護管理部門の基本的役割		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護サービス提供のしくみを理解し説明できる	看護管理(医学書院)	自身が就職を希望する組織の看護ケア提供システムを調べておく。
		各コマにおける授業予定	看護単位の機能と特徴 看護ケア提供システム		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護職者に求められる管理的役割が理解し説明できる	看護管理(医学書院)	新人看護師として勤務する自己を想像し、自己の管理的役割とは何かを考えてみる。
		各コマにおける授業予定	人材のマネジメント 施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント・情報のマネジメント		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	マネジメントのプロセスを知り、課題を考えることができる。	看護管理(医学書院)	看護サービスのマネジメントをテキストにより予習しておく。
		各コマにおける授業予定	マネジメントプロセスとマネジメントサイクル 事例検討		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護倫理原則について、述べることができる	看護管理（医学書院） 看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）	看護倫理綱領を読んで授業に臨む
		各コマにおける授業予定	生命倫理の原則と看護倫理原則		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	倫理的問題を抽出し、倫理原則にそって考察できる	看護管理（医学書院） 看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）	看護倫理について実習経験から問題と考える場面を抽出する。
		各コマにおける授業予定	倫理原則の対立　倫理的問題 臨床で遭遇する事例		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	今日的課題を意識し、述べることができる	看護管理（医学書院） 看護者の基本的責務（日本看護協会出版会）	看護・看護行政の動向から、課題意識をもっておく。
		各コマにおける授業予定	看護を取り巻く諸制度・法令 看護職養成の教育制度 より専門性の高い看護職　等		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	災害看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期　不定期	教室名	3年教室
担当教員	藤原　圭祐	実務経験とその関連資格	国立大阪医療センター所属の看護師			

《授業科目における学習内容》

災害という緊急状況にある対象の応じた看護のあり方を学ぶ

《成績評価の方法と基準》

講義と出席状況を踏まえ筆記試験で評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

災害看護学・国際看護学(医学書院)

《授業外における学習方法》

《履修に当たっての留意点》

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	災害の種類と災害看護のポイントが説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	振り返りまとめる
		各コマにおける授業予定	災害の種類と災害看護の理解		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	災害医療の基本やトリアージが説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	トリアージについて調べる
		各コマにおける授業予定	災害医療の基本トリアージ		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	被災者のストレスとその対策について説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	被災者のストレスについて調べる
		各コマにおける授業予定	被災者のストレスとその対策		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	救護者のストレスとその対策について評価できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	救護者のストレスについて調べる
		各コマにおける授業予定	救護者のストレスとその対策		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	行政における防災体制について説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	振り返りまとめる
		各コマにおける授業予定	行政における防災体制		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害医療活動・災害看護活動が説明できる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	災害看護活動について事例を調べておく
		各コマにおける授業予定	災害医療活動・災害看護活動事例		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	災害対応について述べることができる	災害看護学 国際看護学 (医学書院)	振り返り学習
		各コマにおける授業予定	実際の災害対応場面		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	知識の確認		振り返り学習
		各コマにおける授業予定	まとめ＋終講試験		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	地域福祉論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期　不定期	教室名	3年教室
担当教員	向井　洋江	実務経験とその関連資格	向井:生活相談員　介護支援センター主査　福祉在宅事業部長　ソーシャルサポート会社代表			

《授業科目における学習内容》

地域福祉の理念や行政・民間組織の役割、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。
また、社会福祉サービスについての関心を深め、看護の視点を広げることができる。

《成績評価の方法と基準》

終講試験100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会保障・社会福祉(医学書院)

《授業外における学習方法》

社会福祉サービスについて調べておく

《履修に当たっての留意点》

地域福祉について自分の考えを述べることができるようにしましょう

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉システムと地域福祉の基本的な考え方を説明できる	テキスト	テキストを振り返る
		各コマにおける授業予定	社会保障の概念と目的・機能・体系や内容		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域福祉の主体と福祉教育について自分の意見を言える	テキスト	テキストを振り返る
		各コマにおける授業予定	社会や地域の変化と福祉の動向		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	行政組織と民間組織の役割と実際について説明できる	テキスト	社会福祉の行政についてまとめる
		各コマにおける授業予定	行政組織と民間組織の役割と実際		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護職との関連性・連携についての考えを言える	テキスト	テキストを振り返る
		各コマにおける授業予定	専門職の役割と医療・看護・福祉の連携の実際		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	住民参加とその方法について説明できる	テキスト	テキストを振り返る
		各コマにおける授業予定	社会福祉の分野とサービス。住民参加とその方法		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ソーシャルサポートネットワークについて説明できる	テキスト	テキストを振り返る
		各コマにおける授業予定	ソーシャルサポートネットワーク		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の社会福祉に影響を与えた海外の考え方や日本の地域における社会資源の活用・調整・開発について説明できる	テキスト	テキストを振り返る
		各コマにおける授業予定	日本の社会福祉に影響を与えた海外の考え方 地域における社会資源の活用・調整・開発		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習を振り返ることができる	テキスト	学びを振り返る
		各コマにおける授業予定	終講試験　まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	精神看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80　(2)　時間(単位)
対象学年	3年次		学期及び曜時限	通年　不定期	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

精神疾患の対象との人間関係構築過程を通して、自己の感情や行動特性を意識しながら自己洞察を行う。
対象の疾患と生活環境や社会との関係性を理解しながら、身体・精神・社会的な側面から考え、看護師としての人権と倫理的行動を意識した個別的な看護が実践できる。

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

メヂカルフレンド社:精神看護学概論/精神保健
精神障害をもつ人の看護

《授業外における学習方法》

実習事前学習:・実習オリエンテーションの内容・実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、必要な学習を自身で考え選択し、実習ノートに学習内容を記載する。
実習開始後は、日々の実習内容の振り返りと目標達成度を評価する。また次の実習日のための追加学習を行い、実習計画を立案する。

《履修に当たっての留意点》

①学習計画を立案し、事前学習を行う。②学生としての身だしなみ、態度で実習に臨み、体調管理に留意して遅刻欠席をしない③プライバシーを保持し約束事項を守る。④報告・連絡・相談をする⑤積極的に知識・技術が取得できるように取り組む。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1.オリエンテーションを通して、精神看護に対する自己の思いを表現できる　2.精神科医療での人権や倫理的行動について考えることができる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	①実習オリエンテーション(実習病院　精神医療での鍵の管理) ②人権カンファレンスのテーマについてグループワークで検討を行う。		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	人間関係構築の糸口をつかむ	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・受け持ち患者の決定・コミュニケーション 日常生活援助Ⓑ		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた関わり方が考えられる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち者の情報収集、日課に沿った日常生活援助の実施		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に応じた関わり方が見いだせる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者の情報収集、日課に沿った日常生活援助の実施		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の健康問題に影響を与えた生活上の要因を見出し、全体像を記録に表現できる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者の情報をアセスメントし、看護の方向性を見出す。 看護の実施・追加・修正、情報収集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	人権カンファレンスで、資料をもとに意見交換ができる。	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	看護の実施・追加・修正、情報収集 人権カンファレンス		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	社会復帰に向けた制度・支援・支援の実際について理解できたことをまとめられる。	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者の看護の実施・追加・修正、情報収集 デイケア・社会復帰体験実習		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	保健医療福祉システムの仕組みや関係職種との連携のあり方を考えることができる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者の看護の実施・追加・修正、情報収集 テーマカンファレンス		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して、自己理解が深まった点を発表できる	実習要項 教科書・参考書 実習ノート	実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	実習で受け持った事例や自身のかかわりを振り返り、自己理解できた点を考察する。 探求したいテーマを設定して、自分の看護の検証を行い、発表する		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	成人看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80　(2)　時間(単位)
対象学年	3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

疾患からの回復が困難な成人期の患者とその家族に対して、QOLの維持・向上を目指した援助や苦痛の緩和ができる基礎的能力を習得する。

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、各自必要と考える教科書

《授業外における学習方法》

各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習をに行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。

《履修に当たっての留意点》

①学習計画を立案、事前学習を行い実習に臨む②学生としての身だしなみ・態度で実習に臨み、健康管理を行う③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④必要な報告・連絡・相談をする⑤知識・技術が取得できるよう積極的に取り組む

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	事例患者とのコミュニケーション方法について考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	事例患者のアセスメント、ロールプレイ 病院オリエンテーション 事前課題の確認　自己・グループの目標発表		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族との関わりを通して、全人的苦痛に気づくことができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦痛を軽減し、その人らしく生活できるよう援助方法を考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)や治療とその程度、関連する因子を理解し、表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の中間評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してへ必要な援助が実施できる①	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してへ必要な援助が実施できる②	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の最終評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での経験を通して、学びをまとめることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	終末期にある患者や家族への関わり、看護師の役割についてまとめ、発表し、自身の視野を広げる		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	統合実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	3年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

既存の知識・技術・態度を統合させ、安全に看護を実践できる能力を養うとともに、患者・家族をはじめ保健・医療・福祉チームメンバーの一員として現実的に対応できる基礎的能力を習得する。

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、看護管理の教科書　各自必要と考えるテキスト等

《授業外における学習方法》

病院・病棟の概要を理解する。チームビルディングやメンバーシップについて理解し看護師チームの役割についての必要性がわかる

《履修に当たっての留意点》

①事前学習を行い実習に臨む②健康管理を行い、学生としての態度で実習に臨む③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④メンバーへ必要な患者情報を的確に伝える⑤優先度を考え、複数患者へのケアがスムーズに行えるように積極的に取り組む

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象病院の概要、看護理念等を調べるとともに、チームビルディングやメンバーシップについての必要性がわかる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、 グループメンバーとの関り	事前学習 実習内容の理解
		各コマにおける授業予定	病院オリエンテーション 対象病院の看護理念や受け持ち患者の情報取集 チームビルディング KJ法にて理想の看護チーム像を作成する		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	看護管理の実際(医療安全対策や患者ケア管理、人事管理)がわかる また、チームリーダーとメンバー間の報・連・相のタイミングがわ	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、看護管理者、チームリーダー・メンバー看護師との関り	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション チームリーダーへシャドウイング 受け持ち患者への情報収集		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	チームリーダーとメンバー間の連携の在り方がわかる。 継続した看護を提供するための連携がわかる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、チームリーダー・メンバー看護師との関り	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	チームメンバーへのシャドウイング 受け持ち患者への情報収集と看護実践		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者の情報を収集し、アセスメントとともに報告・連絡・相談ができる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	情報収集　受け持ち患者への看護援助		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の情報を収集し、アセスメントとともに報告・連絡・相談ができる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	情報収集　受け持ち患者への看護援助		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	複数患者への対応で、看護チームとして看護を提供する連携のありかたがわかる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者、グループメンバー	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	2人目の受け持ち患者の情報収集 2名の患者への看護援助 チームメンバーと打ち合わせ		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	優先順位を根拠をもって判断し看護援助を実践できる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者、グループメンバー	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	2人目の受け持ち患者の情報収集 学生ペアでの看護援助 チームメンバーと打ち合わせ　優先順位と時間配分の判断		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	多重課題に対応するときに生じる問題を予測し時間配分を考え看護援助ができる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者、グループメンバー	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者の情報収集 学生ペアでの看護援助 チームメンバーと打ち合わせ　優先順位と時間配分の判断		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	看護チームで共同する事への重要性や必要性を理解し看護援助ができる	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者、グループメンバー	看護実践に必要な学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者の情報収集 学生ペアでの看護援助　主体的な協力 優先順位と時間配分の判断		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習で経験したことを踏まえ、医療チームのメンバーとして自己の課題を明確にする	実習要項 各自で必要と考えるテキスト、実習指導者、担当看護師、受け持ち患者、グループメンバー	追加学習 リフレクション
		各コマにおける授業予定	学内リフレクション　個人ワーク　発表		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	母性看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80　(2)　時間(単位)
対象学年	2年次または3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	実習病院
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師または助産師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

周産期における母子の生理的変化や心理・社会的特徴を理解し、母子及びその家族が順調な経過をたどり、よりよい状態へ促進するための看護を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学②母性看護の実践　メディカ出版　ナーシンググラフィカ　母性看護学③母性看護技術　メディカ出版　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器　成人看護学9　医学書院　その他参考資料
産科病棟及び、産婦人科外来での実習

《授業外における学習方法》

実習事前学習:・実習オリエンテーションの内容・実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、必要な学習を自身で考え選択し、実習ノートに学習内容を記載する。
実習開始後は、日々の実習内容の振り返りと目標達成度を評価する。また次の実習日のための追加学習を行い、実習計画を立案する。

《履修に当たっての留意点》

事前学習を整え、母性看護技術の学内演習を予め行った上で実習に臨むこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	実習オリエンテーション/周産期の母児の受持ちと看護展開		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開/最終カンファレンス		
第	実習	授業を通じての到達目標	病棟実習での受け持ち母子の看護についてまとめることができる		事前学習/追加学習を

5回	実習形式	各コマにおける授業予定	実習まとめ	レポート/リフレクションノート	十分に行って実習に臨むこと

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	保健室実習を通して、思春期の女性が抱える現状をとらえ、その看護の役割について考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	高等学校保健室実習		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	子育て支援事業に参加し、子育て世代の母親の現状や悩みを知ることで、看護の役割を考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	保育所(子育て支援事業)実習①		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て支援事業に参加し、子育て世代の母親の現状や悩みを知ることで、看護の役割を考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	保育所(子育て支援事業)実習②		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	更年期女性への健康教育を通して、看護師の役割について考える	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	学内実習：更年期健康教育		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	周産期の母子に対する看護師の役割や社会資源の活用について、グループ内発表を通じて意見を述べることができる	参考資料	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	母子保健活動(社会資源)に関する学習活動		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

… 15 回		各コマに おける 授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	成人看護学実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

急激な健康破綻や生命の危機を有する成人期にある患者が、順調な回復過程をたどれるよう、異常の早期発見や苦痛緩和、社会復帰に向けた支援の必要性を理解し、その支援を行うための基礎的能力を習得する。

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、各自必要と考える教科書

《授業外における学習方法》

各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習をに行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。

《履修に当たっての留意点》

①学習計画を立案、事前学習を行い実習に臨む②学生としての身だしなみ・態度で実習に臨み、健康管理を行う③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④必要な報告・連絡・相談をする⑤知識・技術が取得できるよう積極的に取り組む

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	事例患者とのコミュニケーション方法について考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	事前学習 実習内容の理解 看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	事例患者のアセスメント、ロールプレイ 病院オリエンテーション 事前課題の確認　自己・グループの目標発表		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	生命の危機的状況にある対象とその家族に寄り添うことができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	生命の危機的状況にある患者を深め、援助方法について考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の生体侵襲について理解し、予測される術後合併症や関連する因子を理解し、表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の中間評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対して健康回復へむけた援助が実施できる①	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対して健康回復へむけた援助が実施できる②	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の最終評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での経験を通して、学びをまとめることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	危機的状況にある患者や家族への関わり、看護師の役割についてまとめ、発表し、自身の視野を広げる		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	老年看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	2年次・3年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

健康障害をもつ老年期の患者を受け持ち、その患者の看護問題に対する看護計画の立案・実施・評価ができる

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践

《授業外における学習方法》

実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。

《履修に当たっての留意点》

事前学習・追加学習は必ず行うこと。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1. 病棟の特徴・機能を述べることができる 2. 受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集する	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび他の情報源からの情報収集		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察およびフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学(実施)		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に必要な日常生活援助が述べられる。	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施(見学)とリフレクション		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の全体像が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の全体像を因子間の関連とともに表現		
第	実	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護上の問題と看護の方向性が述べられる		

5回	実習形式	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の看護問題の抽出	受け持ち患者	実習要項参照

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護計画を具体的に表現できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の具体化		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	アセスメントおよびリフレクションから、受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	アセスメントおよびリフレクションから、受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者への看護について評価し、今後の課題を述べることができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者への看護について、患者の状態および自己の言動から評価する　②今後（後半）の実習に向けて課題をあげる		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年看護観について、その理由とともに述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者に対する看護について参考文献や資料を用いて評価し、文章で表現する　②老年観とその理由を文章で表現する		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

… 15 回		各コマに おける 授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	統合演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	3年教室
担当教員	谷 康平 中村 晶	実務経験とその関連資格	谷:Stanford大学大学院卒　職歴:社会医学環境衛生研究所など			

《授業科目における学習内容》

1. 多重課題の事例を用いた演習を行い、臨床判断力の基礎を作る。
2. 臨床判断に必要な知識を統合し、様々な場面で活用する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験100%(谷:70%　中村30%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布資料・各種テキスト

《授業外における学習方法》

教科書や参考書を用いて主体的に学習する

《履修に当たっての留意点》

教科書や参考書を用いて、知識をあいまいにせず、確実な知識を獲得できるよう学習すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多重課題の臨床的判断の必要性について説明できる	配布資料 各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	多重課題に対する臨床判断の必要性		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	複数の事例への優先順位を考慮した行動計画を立てることができる。	配布資料 各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	多重課題(複数事例)の優先順位と行動計画・演習準備		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	優先順位を考えた事例への援助ができる	配布資料 各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	多重課題演習		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	優先順位を考えた事例への援助と振り返りができる	配布資料 各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	多重課題演習とまとめ/振り返り		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な解剖生理と病態生理の情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料 各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識① 解剖生理と病態生理		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な解剖生理と病態生理の情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識②　解剖生理と病態生理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な解剖生理と病態生理の情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識③　解剖生理と病態生理		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な解剖生理と病態生理の情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識④　解剖生理と病態生理		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な保健統計や関係法規などの知識を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑤　保健統計・関係法規　など		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な保健統計や関係法規などの知識を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑥　保健統計・関係法規　など		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な保健統計や関係法規などの知識を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑦　保健統計・関係法規　など		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な様々な領域の知識と情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑧　領域横断の知識と看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な様々な領域の知識と情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑨　領域横断の知識と看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な様々な領域の知識と情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑩　領域横断の知識と看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床判断を行うのに必要な様々な領域の知識と情報を統合していくことの必要性が説明できる	配布資料　各種テキスト	予め配布資料を熟読し、必要な予習/復習をして臨むこと
		各コマにおける授業予定	臨床判断に必要な知識⑪　領域横断の知識と看護　まとめ/終講試験		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	成人看護学実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80　(2)　時間(単位)
対象学年	2年次、3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

慢性疾患や障害など健康障害を抱えて生活している成人期にある患者とその家族が、その人らしい社会生活が送れるためにセルフマネジメント能力獲得の必要性の理解と、その支援を行うための基礎的能力を習得する。

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、各自必要と考える教科書

《授業外における学習方法》

各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習をに行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。

《履修に当たっての留意点》

①学習計画を立案、事前学習を行い実習に臨む②学生としての身だしなみ・態度で実習に臨み、健康管理を行う③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④必要な報告・連絡・相談をする⑤知識・技術が取得できるよう積極的に取り組む

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	事例患者のセルフケア能力確立に向けた指導案の立案や指導のイメージができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	事前学習 実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	事例患者の指導案立案、ロールプレイ 病院オリエンテーション 事前課題の確認　自己・グループの目標発表		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	慢性疾患や健康障害を抱えることによる精神的な揺らぎや障害の受容過程について表現できる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康障害を持ちながらも、その人らしく生活できるようにセルフケアマネジメント能力を獲得するための援助方法を考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)とその程度、関連する因子を理解し、表現することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の中間評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる①	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる②	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の最終評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での経験を通して、学びをまとめることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	慢性疾患や健康障害を持つ患者や家族への関わり、看護師の役割についてまとめ、発表し、自身の視野を広げる		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期　不定期	教室名	3年教室
担当教員	本井　治	実務経験とその関連資格	厚生労働省・病院施設にて勤務、医療系専門学校にて関係法令を教授			

《授業科目における学習内容》

日本の社会で生活する国民としての権利と義務を自覚し、看護師としての法的役割と責務を理解する。そして対象者がよりよい生活ができるよう、看護師として医療・保健・福祉の法と制度の知識を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

終講試験100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

看護関係法令(医学書院)　公衆衛生がみえる(メディックメディア)

《授業外における学習方法》

教科書を予習・復習する。 他の科目と関連づけ、また新聞等マスコミの情報などから、現在の医療、福祉についての課題について考察する。

《履修に当たっての留意点》

看護学概論や各看護学の概論、社会福祉、公衆衛生等との関連性を考えながら講義に望むこと。広い視野で今までの学習内容を振り返りながら、学習する

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	法の概念がまとめられる。	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	法の概念		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健師助産師看護師法と看護師の業務との関係性を説明でき言える	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法　保健師助産師看護師法		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健師助産師看護師法の重要な内容がピックアップできる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法　保健師助産師看護師法　看護師等確保法		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療法に規定されている内容を説明できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法　医療法		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療関係者の資格についての内容を説明できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法　医療関係者資格法		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療を支える法の内容を述べることができる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法　医療を支える法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療を支える法の内容を述べることができる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医事法　医療を支える法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神保健・母子保健法等の重要事項が見出せる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	保健衛生法　精神保健法・母子保健法　他		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症に関する法律の重要事項が見いだせる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	感染症等に関する法律		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬務法等の重要な内容を説明できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	薬務法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保険の制度・仕組みを説明できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	社会保険法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉法等の重要事項を抽出できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	福祉法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	働く者としての労働法で重要事項を抽出できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	労働法と社会基盤整備		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境法の内容を説明できる	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	本科の重要ポイントを抽出し、まとめることができる。	教科書 資料	授業の到達目標を念頭に置き、テキストを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		